シーワールドのアニマル達

●海のいたずら小僧ネズミイルカ

当館で飼育されているイルカ類の中で、一番小さな種類は、成長しても体長1.8ｍ、体重50㎏程にしかならないネズミイルカです。このネズミイルカは、主に北極海やベーリング海などの寒い海で生活をしていますが、日本近海でも冬から春先にかけて、北海道や東北地方の沿岸で姿を見ることができます。当館のネズミイルカは北海道産で、昭和61年11月６日から飼育されていますが、世界でも飼育頭数が少ないために、水族館でご覧いただけるイルカたちの中では大変珍しい種類といえます。

ネズミイルカは、現在マリンシアターで５頭飼育されていますが、一緒に飼育されている大きくて優雅な動きを見せるベルーガとは対照的に、小さなからだで機敏に泳ぐ動作が人気を集めています。また、大変いたずら好きな性質で、ベルーガが遊んでいる道具を横取りし、ベルーガを怒らせたり、とまどわせることがしばしばあります。しかし、５頭の小さなイルカたちの悪びれもせず楽しそうに道具で遊んでいる動作を見ていると、思わず微笑んでしまうこともあります。

くちばしがなくネズミの顔を連想させるような顔つき、小さく素早い動き、全ての動きが愛らしく見えるネズミイルカ。この貴重なネズミイルカを大切に飼育していきたいと思っています。（佐伯）

▲ネズミイルカ *Phocaena phocoena*

●マスノスケ（キングサーモン）

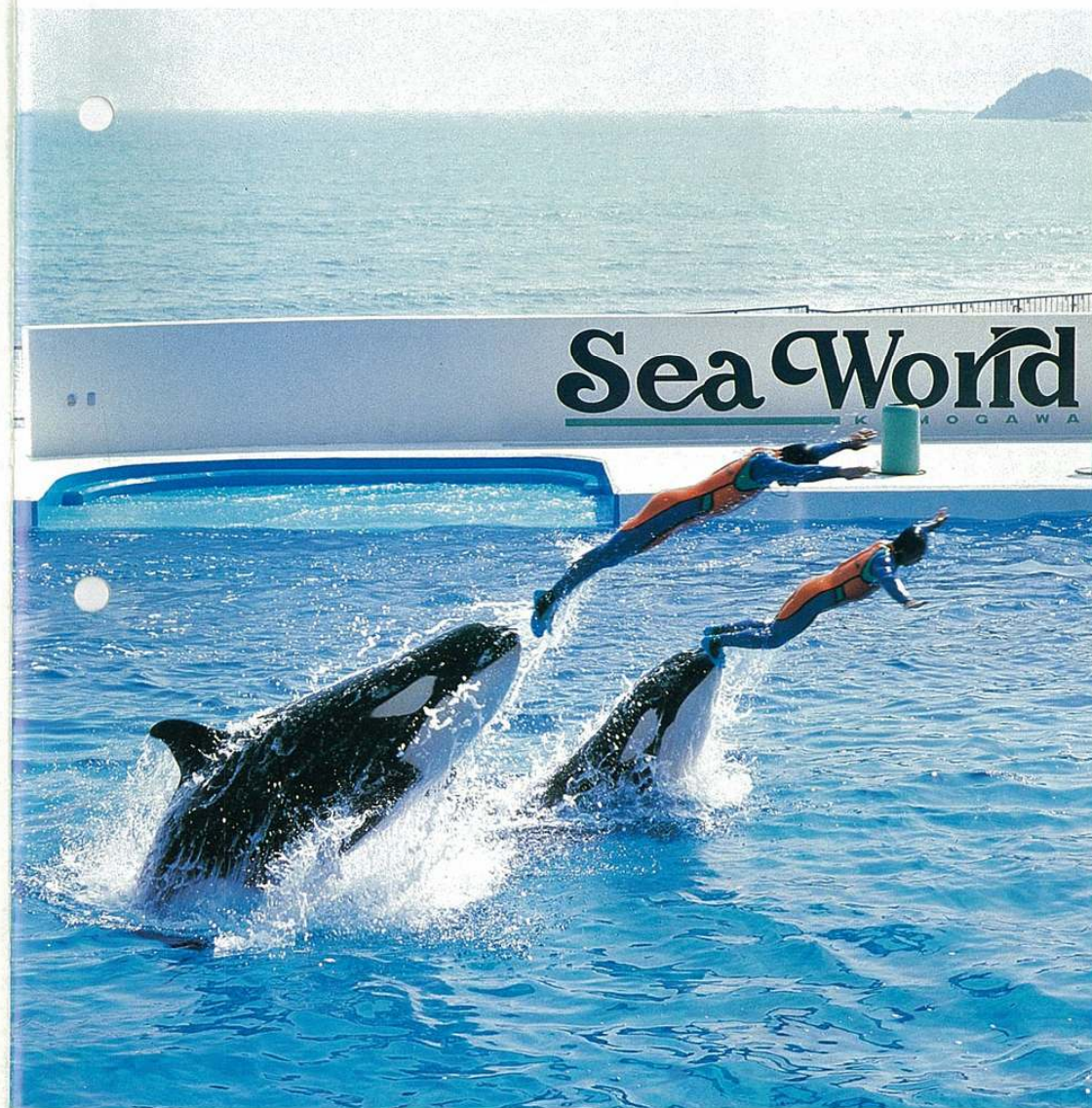
マスノスケは、サケやマスの仲間の大将という意味があり、英名ではキングサーモンと呼ばれ、アラスカではエスキモー語で最も大きいサケという意味のチノックと呼ばれています。その名の通り、全長150㎝、体重60㎏にもなり、北太平洋産のサケ、マスの仲間では一番大きく、まさに王者としての風格があります。

産卵のためカムチャツカ半島、アラスカ、カナダ、アメリカ北部の河川へ海から大挙して上ってきますが、日本では北海道の河川で僅かに見られるだけです。サケが、ふ化後60日位で川を下り海へ出るのに較べ、マスノスケはふ化後１年から２年、長い個体では３年も淡水の河川で生活した後、海での生活に旅立っていきます。

当館では、アメリカのオレゴン州で採卵され、日本でふ化させた全長約10㎝、体重約５ｇのまだ小さなマスノスケの展示を始めました。海では冷たい水温の中で生活しているため、展示水槽には冷却機が設置され、水温13℃に保たれた淡水で約900尾が飼われています。

銀色のお腹をキラキラ光らせながら、群れになって泳ぐ姿は大変美しく、また給餌の時間になると一斉に水面へ向って垂直に泳ぎ出してくる光景は、お客様を楽しませてくれています。

今はまだ小さなマスノスケですが、全長150㎝、体重60㎏にもなると思うと、今後の成長が楽しみな魚です。（森田）

▲キングサーモン *Oncorhynchus tshawytscha*

さかまた No.29
（禁無断転載）
編集・発行 鴨川シーワールド
〒296 千葉県鴨川市東町1464－18
☎(04709)２－２１２１
発行日 昭和62年７月

さかまた

鴨川シーワールド NO. 29

オーシャンスタジアムオープン

青く広がる太平洋をバックに、巨大なドームが出現、それが3月21日にオープンしたオーシャンスタジアムです。豪華で雄大な施設もさることながら、鴨川シーワールドのシンボルである、シャチとトレーナーの触れ合いとダイナミックなショーは、観る者を魅了し、今まで経験したことの無い、新しい感動の世界を満喫させてくれます。

それでは、オーシャンスタジアムの施設とシャチショーについて、ご紹介しましょう。

▲オーシャンスタジアムの全景。

I）施　設

Saving all my love for you　〝全てをあなたに〞（ホイットニー・ヒューストン）の優雅なテーマミュージックに乗せて、海の友シャチの心暖まるショーを楽しむ場所、オーシャンスタジアムは、敷地面積38,586㎡、建築面積 1,648㎡、延べ床面積 2,487㎡で、一年の工期をかけて完成しました。

シャチショーの舞台となっている楕円形のメインプールは、長径33m、短径20m、水深6m、保有水量3,500tを有し、世界的規模を誇っています。また、繁殖用のプールとして幅15m、長さ20m、水深4m、保有水量1,300tのサブプールも隣接されていて、ショープールと合わせた総水量は4,800tとなります。プールと客席はアクリルガラスで仕切られて、水中から水上へ連続的にシャチショーが観覧できるように工夫されております。また真夏における水温上昇をコントロールするための冷却設備や、プール水の透明度を充分に保つための沪過循環装置などが設置されています。

観覧席は、海との一体感をもたせるため太平洋を一望できるよう、南向きに設計され、2,200人収容のどの観覧席からもショーが見易いように、全体を扇形としたコロシアム形式が採用されています。なお、スタジアム観覧席の下にはアクリルガラス窓を通して、水中のシャチを観ながら食事のできる、世界でも類のない、レストランオーシャンもあります。このようにオーシャンスタジアムは、鴨川シーワールドの15年間の経験から得られた、さまざまな工夫が豊富に盛り込まれるとともに、モダンなセンスを取り入れた、ヤングからシルバーまでが満足いただける施設となっています。

▲2,200人収容の扇形をしたスタンドより観るシャチショー。

II）シャチショー

オーシャンスタジアムでのシャチのショーは、「フレンドリー・オルカ・イン・ジ・オーシャン」（海の友　シャチ）のタイトルのもとに、大きなプールを充分に活用した、人とシャチとの触れ合いを主体とする内容を観覧いただくように組み立てられています。

ショーは、〝シャチの紹介〞〝人とシャチとの触れ合い〞〝シャチのパワー〞の3つのパートから構成され、4m以上もある巨体の美しさをくまなく見せてくれる、ステージ上へのランディング、トレーナーを丸い吻部で水上高く押し上げるリフティング、および水中から強力なジャンプ力を利用してトレーナーをロケット弾のように空中に飛び出させるスカイロケットなど、今までのショープールではご覧いただけなかった演技の数々が盛り込まれています。

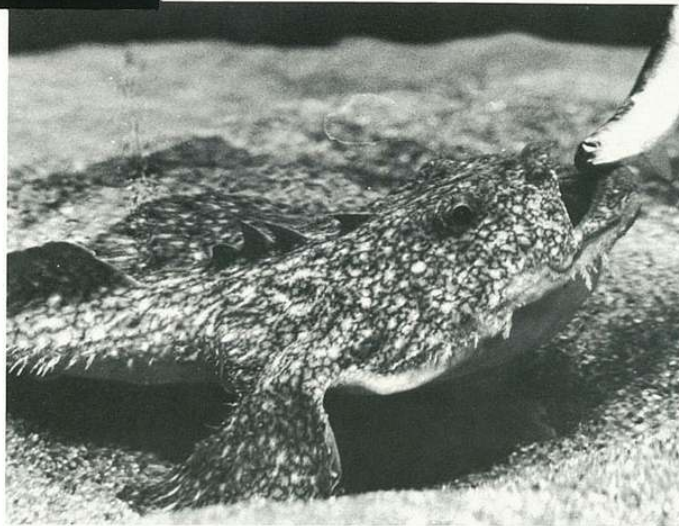
しかし何といっても、この新しいオーシャンスタジアムで演じられるシャチのショーでご覧いただきたい事は、水中に身を置いたトレーナーとシャチとの触れ合いから生じる心暖まる雰囲気です。

海と空をバックにした、今までのプールの約4倍の水量を持つショープールでなければご覧いただけない、当館が誇る世界的水準のショーをぜひ一度ご覧下さい。（大島、君塚、前田）

▲息の合ったシャチとトレーナーのプッシングパトロール。

トレーナーとのふれあいを演じる2頭のシャチ。

巨体を舞いあげて観客を魅了▶するシャチ。

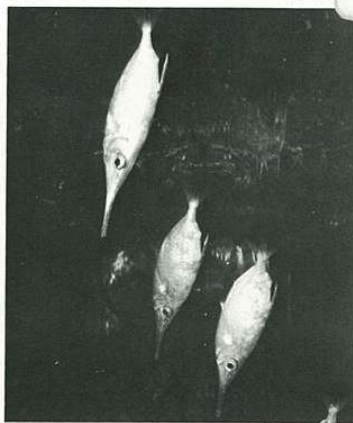
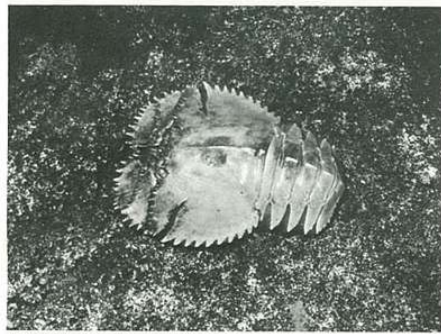
トピックス　アンコウ　初めて空を飛ぶ？　大成功!!

▲キアンコウ　*Lophius litulon*

昭和61年5月、アメリカのシーワールド・サンディエゴの魚類収集担当部長ジェリー・ゴールドスミス氏が来館した時、日本産魚類をアメリカで展示したいとの強い希望がありましたので、先方が特に興味を持っている、キアンコウ5匹を含むミドリフサアンコウ、ハシキンメ、サギフエ、ウチワエビなど5種42点をアメリカへ送ることを約束しました。

しかし、キアンコウは飼育技術の開発に6年もついやすほど、飼育がむずかしい種類であるため、初めての長時間の輸送を行うにあたって、シーワールド・サンディエゴの希望するサイズと輸送に耐える個体の収集や、輸送器材の準備および36時間かかる輸送のための予備実験など、さまざまな準備が時間をかけて行われました。その結果、少量の水と酸素の入っているビニールバックの中で長時間過ごすと、胃袋に酸素を飲みこみ、腹部を上にして引っ繰り返ってしまうことなど解決しなければならないことが次々と見つかりました。これらの問題も、数回の実験により解決され、無事アメリカまで空輸することができる見通しがつき、昭和62年5月11日にアメリカへ向け、いよいよアンコウの空輸作戦を実施することとしました。

当日は、海水を含めた総重量が 200㎏にもなる荷造りが行なわれ、トラックで新東京国際空港まで運んだ後、アンコウたちは航空会社に預けられました。

アンコウたちが日本を旅立ってから2日後、シーワールド・サンディエゴのコーネル副社長から「無事到着」の朗報が入った時は、無事にアメリカに到着することを祈っていた係員一同は、ホッと胸を撫でおろしました。　（金銅）

▲ウチワエビ　*Ibacus ciliatus*

▲サギフエ　*Macrorhamphosus scolopax*

アシカの007　Part Ⅰ

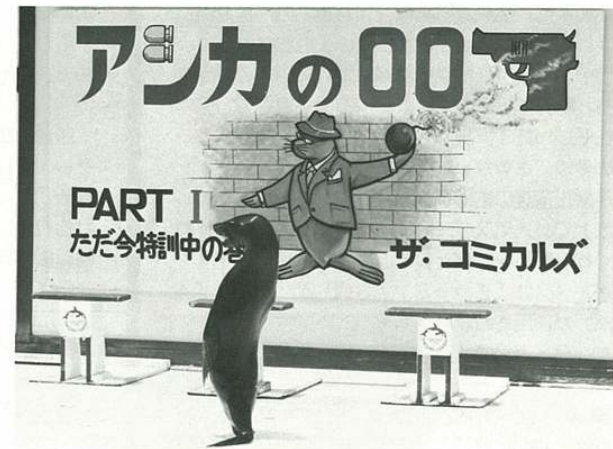
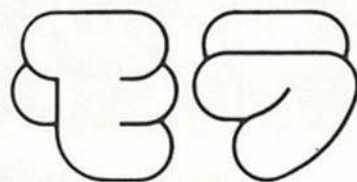
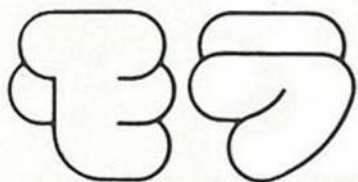
「アシカの007　Part Ⅰ　ただいま特訓中の巻」今年の3月にオープンした、新しいアシカショーです。未来の007をめざして、粒ぞろいの優秀な4頭のアシカがトレーニングに励み、適正試験に合格します。しかし、基本トレーニング、実戦トレーニングと進むうちに次第に失格者も出て、チームワークの良さがポイントとなる、アシスタントのトレーナーと一緒になって演じる「忍び」の卒業試験で幕が引かれます。2人3脚ならぬ2人5脚ぶりを発揮して、いったい何号がトレーニングスクールを卒業し、プロのスパイとして巣立っていけるでしょうか。

アシカならではの倒立、ダイビング、ボール芸から、エアロビクスや人マネなどのユーモラスな演技もふんだんに盛り込まれています。「アシカの007」をお楽しみ下さい。　（荒井）

❶ オイ、ぬかるなよ

❷ オッ!?

❸ かくれろ!!

❹ ムッ!!

❺ どうだ、どうだ!!

●特別展示「房総の春」

春になると、いろいろな生き物たちが姿を現わします。しかし、生き物たちの活動を始める時期は、それぞれの地方や年によって異なっています。

そこで、都心よりも春が一足先にやってくる鴨川を中心とした房総の川や海など、水の中の生き物たちの春の動きを暦にして、お客様にご覧いただこうと計画しました。

冷たい冬の水の中でじっとしていたメダカやアメリカザリガニが、水槽の中で元気に泳ぎまわる姿や、産卵のため海から川にあがってきたシロウオが巣づくりする様子などに、春のいぶきを感じながら、昔を思い出して楽しんでもらえたようで、大変好評を得ることができました。

（森）

●マンボウ飼育2,000日突破

飼育世界記録を更新中のマンボウの「クーキー」は、6月16日に飼育日数 2,000日を迎えました。10年前までは、飼育 100日の壁を越すために四苦八苦していたことを考えると、この2,000日という記録は夢のようであり感無量です。これに至ったのも、これまでの絶え間ない飼育技術の開発と研究の蓄積によるものであることはいうまでもありません。搬入時の昭和56年12月24日の「クーキー」は体長72cm・体重19kgでしたが、現在では185cm・310kg（推定）と成長し、大変迫力のある姿を見せてくれています。2,000日を迎えた今、飼育日数の更新だけを目標とするのではなく、この動物をより多くの人達に理解してもらうための努力にも力を注いでいきたいと考えています。

（津崎）

●わんぱく「ラッコ」の愛称決定！

昨年10月2日に、アラスカから搬入したラッコ3頭の愛称を公募したところ、北は北海道、南は沖縄まで、全県から総数 7,574通もの応募がありました。人気者にふさわしく、子供たちからは、ラッコのイラストや一言が書かれているのが目立ち、応募作品の中には、ラッコの生息地アラスカをもじった「アスカ」「ラスカ」、人気タレントの愛娘「さやか」などもありました。

厳正審査の結果、個体の特徴的行動をも考慮した上で、人気スターにふさわしく、広く親しまれやすい愛称を基準として、オスは「ラッピィ」（1歳）、メスは「チャーミン」（3歳）と「クリン」（4歳）が採用されました。命名者には、ラッコのぬいぐるみやテレホンカードなどが贈られました。

（村田）

●新ショータイム誕生

オーシャンスタジアムがオープンしたことによって、これまでの各動物ショーや展示に、色々な変化が起こりました。まず、これまでの「シャチ・イルカショー」が、「シャチショー」「イルカショー」に分かれました。さらに「トドショー」は、ラッコ、セイウチ、キタゾウアザラシとともに、「海獣たちの食事時間」として、新たに模様変えをし、そして、動物たちとのふれあいの場を提供する「ディスカバリー・ガイダンス」の充実もはかられました。これにともなって、昭和45年の開園以後17年間続けてきたショータイムも、初めて変更され「シャチショー」など4つの動物ショー（各20分間）を中心とした、今まで以上に楽しさ満載の「新生シーワールド」が誕生しました。

鴨川シーワールドの
新旧英文ロゴタイプ

〔新〕
Sea World

〔旧〕
Kamogawa Sea world

（大島）